

まちのたから (38) 文化財室通信

シリーズ 「日本遺産」 第12話

今回は、坊領道とその沿線にまつわることなどについて紹介します。

大山道「坊領道」

坊領道は、伯耆西部の大山北麓周辺から、旧大山寺領の北端に位置する坊領を経て大山寺へ向かう参詣道です。坊領への進路は主に三方向あり、一つ目は御来屋宿から進んで上高田を経て阿弥陀川を渡る道、二つ目は所子から平を経て坊領へ上がる道、三つ目は淀江宿から長田を経て平く坊領へ、もしくは長田く宮内く佐摩から大山寺へ向かう道です。坊領道は、鳥取藩領と大山寺を結ぶ南北筋の主要な道でした。

所子の町並み

坊領道沿いの集落では、各家で仔牛生産をした家屋の配置や牛繋ぎ石などが今も残っています。牛は、母屋と同じ屋敷地の中に建てられた厩舎で飼われていました。

所子集落の民家には、牛馬を治療する仕方書が残されており、牛馬市に出す牛を大切に育てていた様子が今に伝わっています。町並みが国の重伝建地区に選定された所子地区で

も、集落内にもかつての牛馬と共にある農村集落の営みが垣間見えます。

大山寺の分れ地蔵

尾高道と坊領道の合流地点である大山寺博労座の入口には、よく目立つ石地蔵と、傍らに道標が立っています。「分れ地蔵」とも「頼朝地蔵」とも呼ばれるこの地蔵の台座には「六十六部、元祖頼朝坊大法師…」などと刻まれており、廻国行者ゆかりのものと思われれます。道標には、
 右 みくりやいなば
 左 よなごいずも
 従是
 と刻まれ、二つの主要道の出発点であることが感じられます。



▲分れ地蔵と道標

今に伝わる坊領道

坊領道の中でも、種原入口あたりから籠立橋付近にかけて、大山古道



▲「地蔵道」碑

が良好に残されています。この道は、数年前までは藪になって道筋も分からなくなりつつある状態でした。この道を遊歩道として再生・活用する取り組みが「まちづくり大山」で行われ、今は地域の歴史と自然を満喫できる道として顕在化しています。一町地蔵や「地蔵道」碑など、往時を体感できる道です。

大山おこわと大山そば

山の幸に恵まれたこの地域で作られる餅米を蒸したおこわが、日持ち腹持ちの良さから大山参詣者の携帯食として喜ばれました。また、大山寺の基好上人が栽培を奨励したと伝わる蕎麦を挽いた大山そばも牛馬市でふるまわれ、市の隆盛とともに大山の名物となっていきました。今でも旧大山町域を中心に、祝い事などの際、家庭で作られています。

大山を代表するこれらの味覚は、今なお人々を魅了しています。

(人権・社会教育課 文化財室)

教育支援センター 「寺子屋」移転のお知らせ

これまで、旧庄内小学校で運営しておりました教育支援センター寺子屋を、次のとおり移転することになりました。(教育研究所は、教育委員会事務局内へ移転)

【場所】

保健福祉センターなわ北側1階 (ペタンクコート横)

☎0859・54・2037

【業務開始】

平成30年4月9日から

教育支援センター寺子屋は、不登校または不登校傾向の児童生徒に対し、カウンセリングや相談活動、学習活動等を行いながら、学校への再登校をサポートしていくための教室です。保護者の相談や悩み等も電話や来所にて受け付けています。お気軽にご相談ください。

